[事案 2023-93] 転換契約無効請求

・令和5年11月30日 裁定打切り

<事案の概要>

身に覚えのない契約であること等を理由に、転換の無効を求めて申立てのあったもの。

<申立人の主張>

平成2年3月に契約した終身保険について、平成17年1月に終身保険に転換（転換①）され、その後、平成21年12月に組立型保険に転換（転換②）されているが、以下の理由により、転換①②を無効にしてほしい。

- (1) 転換①②とも、私の関知しないところで申込書が作成されたものである。
- (2) 転換①を取り扱った募集人とは一度も会ったことがなく、転換①の申込書等の書面に署名押印できるはずがない。
- (3) 転換②を取り扱った募集人から転換②に関する説明をされたことがなく、転換②の申込書等の書面に署名押印をしたことがない。

<保険会社の主張>

以下の理由により、申立人の請求に応じることはできない。

- (1) 転換①②の募集人は、いずれも申立人本人と面談のうえ申込手続を行っている。
- (2) 転換①②は、いずれも健康診断結果報告書により、健康状態の確認を受けたうえで申込みが行われている。
- (3) 各契約の保険料は、いずれも申立人名義の同じ預金口座から口座振替されており、転換前後で保険料の金額が異なっているが、申立人から何ら異議等の申し出はなかった。

<裁定の概要>

1. 裁定手続

裁定審査会は、当事者から提出された書面にもとづく審理の他、転換契約時の状況等を確認するため、申立人に対して事情聴取を行った。

2. 裁定結果

上記手続の結果、申立人と保険会社の主張が対立していることに加え、申立人の記憶が必ずしも明瞭とは言えないことからすれば、本件を判断するためには、詳細な事実認定を前提とした慎重な検討が必要で、当事者のいずれかに主張立証責任を負わせ、宣誓の上、当事者の反対尋問権も保障されている裁判手続における証人尋問手続を経て、慎重な事実確認および法的な検討をすべきと考えられることから、裁定手続を打ち切ることとした。